

## 首相時代の原敬日記と国勢調査ー国勢調査に係る統計史料を訪ねて【その5】

奥積 雅彦（総務省統計図書館）

令和2年（2020年）に実施する第21回国勢調査は、大正9年（1920年）の第1回国勢調査から100年目に当たります。これに関連して、原敬と国勢調査についてのトピックスを紹介します。

| <small>はらたかし</small><br><b>原 敬（1856-1921）<sup>1</sup></b>                          |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>父は盛岡藩士。苦学の末、明治9年(1876年)司法省法学校に入学。同12年に退学後、『郵便報知新聞』、『大東日報』の記者をつとめる。外務省入省を契機に官界へ転進。外務次官などを歴任。同30年9月、官界から引退するが、伊藤博文を中心に結成された立憲政友会に参加。同35年衆議院議員に初当選。以後連続当選8回。政友会の実力者として西園寺公望総裁を補佐し、桂園内閣時代の立役者となる。大正3年(1914年)第3代立憲政友会総裁。同7年首相となり、初の本格的政党内閣を組織し、政党政治を推進するが、同10年東京駅で暗殺された。</p> |

### 1 原敬と第1回国勢調査

原敬と第1回国勢調査については、統計学習サイト「なるほど統計学園高等部」（統計年表）に掲載されていたので、紹介します。<sup>2</sup>

原敬は、明治・大正期における我が国の代表的な政党政治家であり、大正7年（1918年）に総理大臣に就任し、「平民宰相」と称されました。

原は、大隈と同様、統計に関心を持ち、総理大臣として我が国の統計の発展に尽力した数少ない人の一人です。具体的には、大正9年5月、総理大臣として自らの手で内閣統計局と軍需局を合併して内閣に国勢院を創設し、統計発展の基盤を整備するとともに、この年の10月、我が国で最初の国勢調査を実施しました。

また、時代が遡りますが、…パリのフランス公使館書記官として勤務していた明治19年（1886年）、東京統計協会会長の渡辺洪基（注：東京府知事、東京帝国大学総長などを歴任）からの依頼に基づき、この年に実施されたフランスの人口センサスの実施状況を詳細に調査しています。さらに遡って明治14年、原はこの渡辺に後の統計局長となる花房直三郎を加えた3人で約半年間、関東・東北・北海道の諸国巡遊の旅に出かけています。このように、統計に縁が深かった原ですが、我が国の統計の発展にとって残念なことに、第1回国勢調査の結果を見ずして調査実施の翌年に暗殺されてしまいました。

<sup>1</sup> 【参考資料】、【写真】：国立国会図書館HP「近代日本人の肖像」

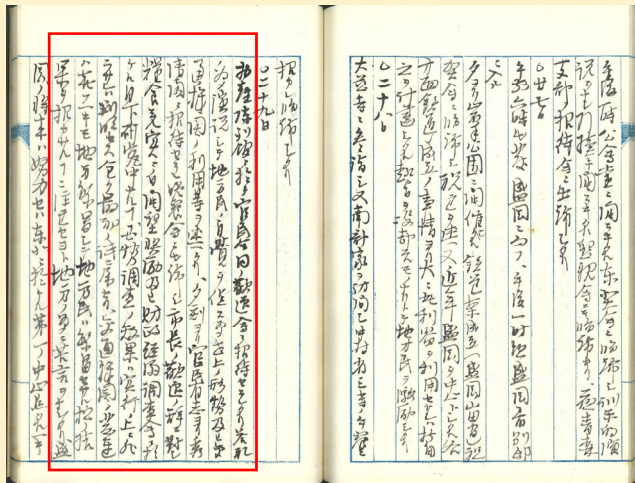
<sup>2</sup> 【参考資料】：国立国会図書館インターネット資料収集保存事業（WARP）により保存された2018年6月1日現在の統計学習サイト「なるほど統計学園高等部」（統計年表）

## 2 原敬日記と第1回国勢調査

大正9年の第1回国勢調査は、前述のとおり原敬内閣の下で実施されました。原敬は、内閣総理大臣として、国勢調査について、その意義を理解しつつ、関係者への配慮をしていることが、原敬日記の次の記事から読み取ることができます。

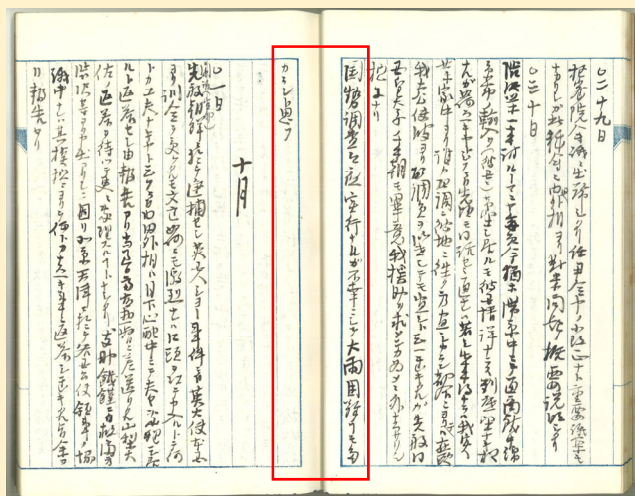
### ・原敬日記における国勢調査実施関係記事

#### ◆大正9年8月29日 【写真】：原敬記念館提供



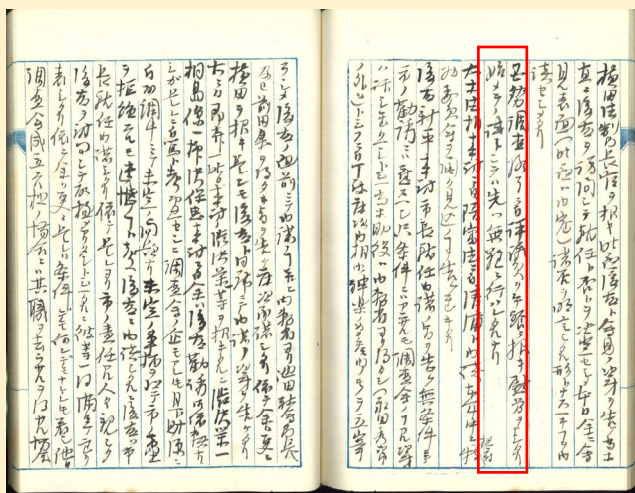
物産陳列館に於いて官民合同の歓迎会に招待せられたり。答禮のため演説して地方民の自覺を促す爲め世上の形勢及び交通機關の利用等を述べたり。夕刻より官民有志より秀清閣に招待せられ晩餐会に出席し、市長の歓迎の辭に對し、糧食充實に付開墾奨励及び財政經濟調査会に於ける目下研究中なる事、国勢調査の効果は實行の上に非ざれば判明せず、全く最初の試みに属せり、交通機關の發達は喜ぶべきも地方繁昌して地方税は繁昌せざる様の結果を招かざる事に注意せよと地方の爲めに苦言をなしたり。

#### ◆大正9年9月30日 【写真】：原敬記念館提供



国勢調査今夜實行なるが不幸にして大雨、困難事も多からんと思ふ。

#### ◆大正9年12月15日 【写真】：原敬記念館提供



国勢調査終了につき、評議員を午餐に招き慰勞をなしたり。始めての試としてはまず無難に行われたるなり。

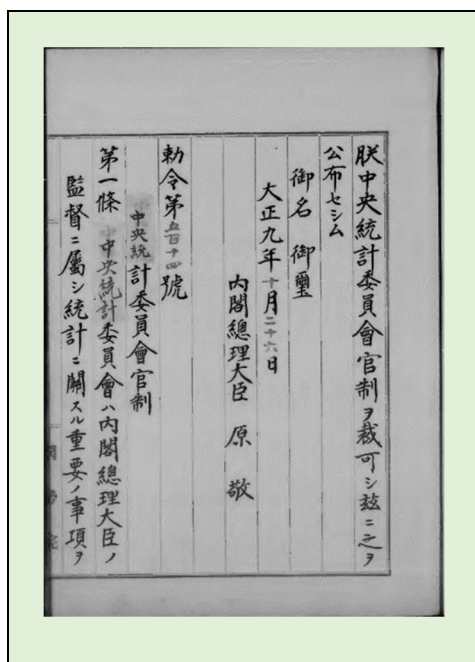
### 3 原敬の統計整備に向けた取組

原敬は、第1回国勢調査の実施に際し国勢院を創設するとともに、同調査の実施の直後に中央統計委員会を設置するなど、統計整備に向けた取組を実施しました。

【参考1】国勢院官制<sup>3</sup>



【参考2】中央統計委員会官制<sup>4</sup>



【参考3】大正10年4月11日の第1回中央統計委員会における原敬首相のあいさつの要旨<sup>5</sup>  
(筆者が原文のカタカナをひらがな表記にし、ルビ等を付しました。)

惟<sup>おも</sup>ふに社会の進歩に伴い、其の組織は益々複雑となると之に対する官公の施設も亦従<sup>また</sup>て詳密を要する訳であります。而<sup>し</sup>て適切穩健なる施設<sup>（施策、計画）</sup>を為すには申す迄もなく、**予め正確なる調査に依て事物の実際の真相を明にすることが最も必要であります。**殊に列国<sup>（ならびすむ）</sup>の<sup>へんしん</sup>大勢に後れざる為には、先般施行せられたる国勢調査の外、更に今後諸君の御意見を伺い、統計に関し新に施設すべきこと又改善を施すべきことも多々あると信じます。**実際の事実に基かざる施設経営は国家社会に対し益する所なきのみならず反て害を残すことがありますから所謂其の本を正すことが最も重要であります。**

<sup>3</sup>【画像】：国立公文書館デジタルアーカイブ

<sup>4</sup>【画像】：国立公文書館デジタルアーカイブ

<sup>5</sup>【資料】：「総理府統計局百年史資料集成」（第一巻 総記 上）

#### 4 おわりに

100 年前の国家的大事業である第 1 回国勢調査は、統計を重視していた原敬内閣の時代において成し遂げることができたといえます。

原敬日記における国勢調査に関する短いくだりと上記の第 1 回中央統計委員会における原敬首相のあいさつの要旨をあわせて読むと、調査の効果は実行しなければ判明せず、そのためには、調査を実行する上で困難もあるが各プロセスで定められた方法で正確に調査を実行する必要があるということを示唆しているように思います。このことは、現行統計法の保護法益である政府統計の信頼確保のための大前提であることを再認識しました。